

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇月〇日(曜)〇校時

指導教諭 ○ ○ ○ ○ 印

指導者 ○ ○ ○ ○ 印

- 1 主題名 気持ちを伝え合って【B—(10) 相互理解、寛容】
- 2 教材名 水やり係
- 3 ねらい 自分の腹立ちをおさえてゆうかさんに思いを伝えようとするわたしの心情をとらえることを通して、自分の一方的な思いだけではなく相手の立場も考えることの大切さに気づき、相手の行動の背景を理解しながら自分の考えを伝えようとする実践意欲を高める。

4 基盤

- (1) 社会生活において、相互に認め合いながら支えあう関係を築いていくことは不可欠である。自分の意見や考えを相手に伝えるとともに、自分とは違う立場の人を理解しようとしたり、広い心で相手の考えを受け入れようとしたりする態度が、よりよい人間関係をつくっていく。しかし、自分本位なものから見方から、つい他者の失敗や過ちを責めてしまったり、自分とは異なる立場の考えを受け入れることができなかつたりすることも多い。本教材は、ゆうかさんが水やりの役割をしていないのではと思い、別の友だちに不満をぶつけてしまった「わたし」が、どんな気持ちをもって「ゆうかさん」に自分の思いを伝えるとよいか考え始める物語である。相手に自分の思いを伝え自分のことを理解してもらおうとする姿勢、相手の思いを受け止め相手を理解しようとする姿勢をどちらも大切にしながら、自分と同じように自分とは立場の違う他者を尊重することの大切さを考えることができる教材である。
- (2) 本学級の児童は、友だちのよさを積極的に見つけ、認めようとしたり、自分の考えをはっきりと伝えようとしたりする児童が多い。何か困ったことがあったときには、話し合ったり、互いに指摘し合って解決しようとする姿が見られている。一方で指摘をしたり、考えを伝えたりするときに、自分の立場からしかものを見ていないために、一方的に責めてしまったり、相手の事情や立場を汲むことができず思いがすれ違ってしまったりすることも多い。間違ったことは言っていないものの、その意図がうまく伝わらなかつたり、互いに理解しあうことができずトラブルになってしまつたりすることもある。相手の立場を理解しようとしながら、自分の思いを伝えることのよさを感じ、実践していこうとする意識を高めていきたい。
- (3) 本時では、はじめに自分ではいいと思ったことがうまく伝わらず、相手が怒ってしまったたり、相手を傷つけてしまつたりした経験はないかを想起するようにする。児童の日常生活の中でよく起こることであり、誰しもがもっているであろう経験を思い起こすことで、学習課題を自分と結び付けてとらえていこうとする動機付けとしたい。ゆうかさんへの思い込みから一方的に腹を立てていたわたしの気持ちの変化をとらえることで、自分の考えを押し付けるためではなく、互いに理解するために考えを伝えるという視点に気づいていけるようにしたい。役割演技を取り入れ、水やりをしていないと思われるゆうかさんに自分だったらどう声をかけるかを考えていきたい。その際、どんな思いからそのような声かけ、態度になったのかを問っていくことで、「声のかけ方」という形ではなく、心の在り様にせまっていけるようにしたい。

5 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援
1. 学習課題をもつ ○自分はいいいとてて伝えたことが、うまく伝わらなかつた経験を想起する。	・自分はいいいとてて伝えても、相手が変わらなかつたことや逆に相手を怒らせたり、悲しませたりしたことはないかを想起すること

- ・注意したけど、言い返された。
- ・だめだよって言ったのに、聞いてくれなかった。

で、学習課題への動機づけをする。

どんなことを心がけて、自分の思いを伝えたらよいのだろう。

2. 教材「水やり係」をもとに考える。

○月曜日でも水曜日でも土がかわいているのを見たわたしは、なぜ腹が立ったのでしょうか。

- ・決めたことを守っていないから、腹が立つ。
- ・自分ばかり水やりをしているから、いやな気持ち。
- ・水やりができないなら、ちゃんと言ってほしい。

○わたしは、どうしてみつきくんの言う通りだなと思ったのでしょうか。

- ・ゆうかさんに理由があったのなら知りたい。
- ・決めつけるのはよくない。
- ・ゆうかさんの気持ちを知りたい。
- ・いきなり決めつけて注意したら、けんかになるかもしれない。
- ・何も言わなかったら、もやもやしたまま。

○自分だったら、どのようにゆうかさんに声をかけますか。どうしてそのように声をかけたでしょう。

【役割演技】

- ・どうして水やりしなかったの？
- ・何か水やりできない理由があった？
- ・声のかけ方をやさしく言った。きつく言ったらゆうかさんもいやな思いになるし、けんかになる。
- ・相手にも理由があるかもしれないから、まずは決めつけずにきいてみるようにした。

○今日の学習を通して、わたしの気持ち、ゆうかさんの気持ち両方を考えてみて、感じたことを書きましょう。

- ・腹が立っても、自分だけの考えではわからないこともあるから、相手の話も聞くとすっきりする。
- ・相手には何かわけがあることもあるかもしれないから、これからは相手のことも考えるようにしたい。
- ・今まできつく言ってしまったこともあったから、これからは相手にわかってもらうように伝えたい。

- ・自分ならどうかと考えて腹立ちメーターとして数字化し、その根拠を話し合うようにする。
- ・自分にも似たような経験はないか声をかけて、自分事としてとらえることができるようにする。

- ・一方的にゆうかさんに腹をたてていた「わたし」の気持ちの変化をとらえるようにする。

- ・ペアでの役割演技を行い、その後全体共有を行う。なぜそのような声かけをしたのか、根拠を掘り下げていくことで、声をかける方法ではなく、どのような心で声をかけたかを深めていくようにする。
- ・役割を交替し、両方の立場で演技することによって、双方の気持ちを比較したり、立場が逆転したときの感じ方のちがいに気づいたりすることで、多面的に考えることができるようにする。

- ・学習の始まりとくらべて考えが変わったことはないか声かけをする。

6 評価の視点

○物語場面と似たような経験はないかをさがし、相手に思いを伝えるときの心について振り返っている。

○一人一人考えがあることや、行動や考えに背景があることに気づいている。